

境川の特徴

境川は、下新川郡朝日町と新潟県の県境にある犬ヶ岳（標高1,593m）に源流をもつ全長13kmの河川です。この川は中生代の地層である来馬層群、手取層群の分布地を流れてくるので、県内の他の河川と異なり、礫の中の泥岩の割合がきわめて高い特徴があります。特に、来馬層群の礫中には二枚貝の化石を含む物が珍しくなく、化石採取ができる貴重な川です。化石は河口や大平集落付近の礫からも見つかりますが、小学校の実習等で何度も採取され、下流ではやや枯渇傾向にあります。しかし、大平トンネル付近から上流では今でも化石が豊富に見つかり、運がよければアンモナイトも発見できることがあります。ただし、大平トンネル手前で通行止めのゲートがあり、上流へ行くには朝日町へ通行申請をしなくてはならないことと、寺谷のアンモナイト包蔵地が県指定天然記念物になっていて、そこでは採取してはいけないことを知っておく必要があります。

上流（滝淵、寺谷出合間の河床の様子）



県指定天然記念物寺谷アンモナイト包蔵地入口



通行禁止のゲート



大平トンネル横河川敷



河口の様子

